

第12回 秋田県教育研究奨励賞授賞式  
秋田県教育研究発表会



「開会式」であいさつする  
桧森所長

総合教育センターだより

◇ — も く じ — ◇

- ・第12回秋田県教育研究発表会開会式・発表風景…… 1
- ・第12回秋田県教育研究発表会……… 2
- ・教育センターにおける「教育の相談」……… 3
- ・充実した研修講座への取組み……… 4
- ・平成9年度総合教育センター刊行物案内……… 4



雄物川町立館合小学校の発表

平成10年3月16日発行

〒010-0101

南秋田郡天王町天王字追分西29番地の76

TEL 0188 (73) 7200 (代表)

FAX 0188 (73) 7201

秋田県総合教育センター

すこやか電話相談 0188 (73) 7206

パソコン通信 0188 (73) 7207 (代表)

学習指導案  
レファレンスサービス 0188 (73) 7210 (FAX)

# 第12回秋田県教育研究発表会



教科研修部長 小柳 力



講演される西木正明氏

好天、参加者1,100余名

平成10年2月12・13日に、「第12回秋田県教育研究奨励賞授賞式並びに秋田県教育研究発表会」が総合教育センターで行われた。

今冬は、連日の荒天と寒波に見舞われており、当日も大分心配されたが、幸い両日とも穏やかな天候に恵まれた。延べ1,165名の熱心な参加者は、それぞれが抱える課題を解決すべく意欲的な質疑応答を行い、発表会は盛会裏に終了した。

この会は、本県の教育研究の成果を広く県内外に公表するものだった。そのあらましを以下に記す。

## 熱意・意欲が表れた発表数と内容

教育研究奨励賞には、小学校11、中学校8、高等学校4、計23の研究論文の応募があり、その中から優秀な3個人、2団体が受賞した。

発表数は、一般申し込み27、各市町村教育研究所の共同研究1、教育センターの研修員28、指導主事5、各研修部4、教育奨励賞応募22、計87だった。変革期にある今日の教育への新たな取組みと、その熱意・意欲を表している発表数であり、それぞれに内容の充実した研究だった。

## センターの研究の紹介

当センターの基本研究課題である「一人一人の思いをはぐくみ、豊かで特色ある学校の創造」に基づき、各研修部の研究が次の内容で紹介された。

- 教職研修部  
「豊かな心をはぐくむ体験活動の在り方」
- 教科研修部  
「一人一人の可能性が生きる学習活動におけるコンピュータの活用」
- 情報教育研修部  
「児童生徒の主体的な学習活動を促進するインターネット」
- 特殊教育・相談研修部  
「少人数特殊学級に対応した学級経営」

これらの研究では、21世紀を生きる子供たちに発達段階に合わせ、どのような学習活動や多様な体験をさせ、人格形成を支援できるか。それらをはぐくんでいくための新しい手法、教育システムの確立を当面する課題ととらえている。

情報通信ネットワーク拠点としての活動が、この4月にスタートすることにより、各学校が当センターを通じてインターネットに接続できると同時に、教育用ソフトなどの様々な教育情報も入手できるようになる。今後、学校でのインターネットを活用した課題学習や共同学習、また、国際交流の在り方の研究も期待されている。

## 西木正明氏講演 演題「小説取材の裏話」

「小説執筆の背景には膨大な取材活動が隠されている。たとえ世に知られなくとも、驚異と感動に満ちた生き方をしている人がたくさんいる。

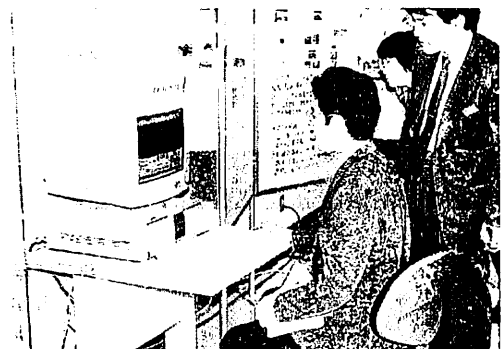
その取材には熱意をもって当たり、その人生に対しては誠意をもって共感し、好奇心をもって探求し、創意に富む表現をしていく。そのためには、取材の成果について冷却期間をおいたり、構想を十数年寝かせたりすることも場合においては必要だ。

『知識の伝承は易く、知恵の伝承は難し』という言葉には、学校教育の場にも通じるものがあり、生き方を考えさせられる。

社会が豊かになり、便利であるが故に人間として失うものもあり、その回復のためには、知性と感性のバランスが大切になってくる。」

西木氏自身の小説執筆の過程に絡めながらの話には、説得力があり、最後まで引き付けられた。

「人間は、できるかぎり書物から学ぶのではなく、天と地、樫の木やブナの木から学ぶ態度を教わらなくてはなりません」コメニウス「大教授学」より



インターネット体験コーナー

# 教育センターにおける「教育相談」



特殊教育・相談研修部長 齋藤 宣子

- (1) 当総合教育センターの教育相談は、今年度も「不登校」に関する相談件数が最も多い。(来所相談の73%、電話相談の49%を占めている)
- (2) 中でも、高校生の不登校、学校不適應の相談が増えている。高校は義務教育ではないので、これまで多くは、休学や退学や進路変更などの形をとっていたものと思われる。
- (3) 兄弟姉妹で不登校状態になっている事例が15組ある。また、発達の遅れやアンバランスが原因で集団や学習に不適應をきたして、不登校に陥っている相談も目立つ。

## ◆ はじめに

子供たちの問題行動が多様化・深刻化しているニュースが連日報道されています。ナイフ所持等による一連の事件は、その氷山の一角にすぎないのではないか、「ふつうの子」がかくも短絡的に反社会的な問題を引き起こしてしまうとは……。暗たんたる思いにかられます。

学校基本調査では、平成8年度の不登校の児童生徒数が過去最高となりました。子供の数が激減しているにもかかわらず、不登校の数は上昇の一途をたどっています。秋田県も例外ではありません。

不登校の原因は、多くの場合、背景にいろいろなものがあり、また、それらが複雑に絡み合い、短期に好転しがたいことは、今では大方が周知するところ。子供たちは「学校に行くことを拒否する」という行動サインを示して、自身の不安感・不安定感・不満足感・そして不適應感を心ならずも発信しているのではないのでしょうか。

## ◆ 当センターにみる教育相談

(平成9年4月～平成10年1月現在)

	来所相談 180件	電話相談 206件
一般教育相談	114件 (面接相談回数1,413)	189件
障害児教育相談	66件 (面接相談回数 514)	17件

来所相談114件のうち83件が、電話相談189件のうち93件が不登校に関するものです。

来所相談に訪れるきっかけが「学校から紹介されて」というように何らかの形で学校が積極的に関わるケースが多くなってきました。これまでとはもすれば、学校生活に全ての原因があるやにとらえてこ

だわり続け、学校とは関係なくあちこちの相談機関に悩みを訴える等をして、事態を長引かせている例が少なくなかったように思います。

不登校の蔓延をはじめ、子供たちの「育ちの危機」を目の当たりにする学校は、予防的対応や解決に向けての具体策が急務となっており、これまで以上に本腰を入れて取り組んでいます。

教育センターもひとつひとつの事例に、学校とさらに連絡・連携を密にし、双方が共通の認識に立って解決をめざすことを確認しながら相談を進める必要があります。

## ◆ タイプ・症状・時期に応じた学校の反応

学校では、様々な対応を講じています。しかし、不登校児童生徒の「状態に応じた指導・援助の仕方がわからない」という不安の声があり、積極的にかわっていけない理由にもなっています。一人一人の多様な状況への対応に苦慮している状態です。

この度、当教育センターの特殊教育・相談研修部では、部の研究のひとつとして、「タイプ・症状・時期に応じた不登校児童生徒の学校の対応」を提示しました。(1998年2月、教育研究発表会で発表。第29集研究紀要参照)

タイプ分けについては文部省の分類をベースにして、「小・中・高の発達段階を踏まえた校種別の分類」を試みました。学校としての対応をより効果的に行うために、直接子供に接する先生方が活用しやすいものであることに留意しました。

さらに、学校との連携によって改善がみられた対応のモデルを校種別にまとめました。今回は取組み初年度のものでありますが、今後とも、学校との連携を進める中で、よりよいものにしていきたい所存です。

平成10年度

## 充実した研修講座への取組み（10年度）

総合教育センターの研修講座は、「秋田県教職員研修体系」に示されている「初任者研修を起点とし、ライフステージに応じた研修」を踏まえて編成しております。

平成9年度に当センターで実施した研修講座は、136講座で、講座延べ日数は356日、受講実人数は4,560人でした。平成10年度は、137講座を計画し、4,950人の受講を見込んでいます。

平成10年度は、今日的な教育課題や教職員のニーズに対応できる研修講座を積極的に設定し、実践的指導力の一層の向上を目指しております。

予定している平成10年度の研修講座の主な特色は次のとおりです。

- ①学校におけるインターネットの活用を推進するために、その指導者の育成を目的にした「学習に活用するインターネット」研修講座をB講座に設定し、インターネット研修の充実を図ります。
- ②昨今の教育改革や教育に関する各種審議会の答申にみられる教育動向を踏まえて、時代の変化に対応した学校教育の改善や、生きる力をはぐくむ学校教育の在り方について研修する「生きる力をはぐくむ学校教育」研修講座を学校改善総合講座としてC講座に新たに設定します。
- ③全校種経験者（10年経過）研修講座の一部として実施してきた「企業等体験研修」を10年度から「社会貢献活動体験研修」と改め、これまでの一部希望者（該当者の30％）対象から、当研修講座の該当者全員を対象とした悉皆研修に変え、研修内容もこれまでの企業中心の研修から、幅広い社会貢献的な活動を軸とした研修になります。
- ④国立教育会館で実施している「衛星通信を利用

した研修」に、10年度も次の2つの研修講座が参加します。

- ・7月30日(木)「いじめの根絶を目指す生徒指導」
- ・10月2日(金)「生き方の指導を目指した進路指導」

⑤「公開講演」（教職と人生シリーズを含む）は、10年度も次のとおり開設しますが、講演内容については、一層充実したものとなるよう配慮しています。

なお、※印の公開講演は「教職と人生シリーズ」です。

- 「開かれた学校と情報教育」  
（東京工業大学・教授 赤堀侃司）
- 「学習指導と評価」  
（東京女子体育大学・教授 尾木和英）
- 「これからの学校教育と学校評価の在り方」  
（国立教育研究所・教育経営研究室長 木岡一明）
- ※「この道ひとすじー鳥海山に魅せられてー」  
（元仁賀保高等学校長 加藤雄悦）
- ※「浜辺の歌と成田為三の世界」  
（浜辺の歌音楽館館長 金新佐久）
- ※「ふるさと探訪ー秋田の地名ー」  
（秋田工業高等専門学校・名誉教授 斉藤 稜）
- ※「私の生涯学習ーシャンソンと私ー」  
（日本シャンソン協会理事 黒崎昭二）
- ※「生きる力の育成とこれからの教育の在り方」  
（東京学芸大学・教授 児島邦宏）

### 平成9年度 総合教育センター刊行物案内

#### ◎ 研究紀要 第29集

- 研究課題「一人一人の思いをはぐくみ、豊かで特色ある学校の創造」
  - ・ 教職研修部研究「豊かな力をはぐくむ体験活動の在り方」
  - ・ 教科研修部研究「一人一人の可能性が生きる学習活動におけるコンピュータの活用」
  - ・ 情報研修部研究「児童生徒の主体的な学習活動を促進するインターネット」
  - ・ 特殊教育・相談研修部「少人数特殊学級に対応した学級経営」
- \*平成10年3月発刊、各学校に5月中に1部ずつ送付する予定です。

#### ◎ 平成9年度 研修員研究集録

#### ◎ 新任教員のための研修の手引

\*新任教員と指導教員、教科指導員に配布されました。

#### ◎ 生徒指導だより

\*総合教育センターから、各教育事務所を経由して、各学校へ月一回送付。

#### ◎ 情報通信「knaコム」No.2～7

\*総合教育センターから、各教育事務所を経由して、各学校へ隔月に年六回送付。  
紹介したすべての刊行物は、いつでも当総合教育センター資料室で、自由に閲覧することができます。